



政策研究大学院大学
教授

竹ヶ原 啓介

統合報告書2024を拝見して感じたのは、長期ビジョンに則した着実な歩みと次期中期計画に向けたさまざまな布石を巧みに組み合わせ、価値創造ストーリーが明快になったことです。次期計画の策定中という、新たな方向感を打ち出しにくいタイミングで、次に向けた展開を感じさせるには、足元の具体的な実績と将来展望をシームレスに接続する構成上の周到的な工夫と全編を貫く強いメッセージ性が必要です。

これを端的に示しているのが、長田社長のトップメッセージです。今回は対話・コミュニケーションを主題に据えています。脱炭素に向けて高度化・多様化する顧客の環境技術ニーズへの対応、グローバル企業として培ってきた海外拠点の「自主自立」を活かしつつ、最新の技術的知見の共有を進めること、グループ社員の求心力を上げ、モチベーションを高めることなど、コミュニケーションの果たす役割が成長戦略に絡めて多角的に語られます。加えて、昨年に続いて実施された社外取締役座談会が、トップメッセージを敷衍する形で、コミュニケーションを掘り下げたのも効果的でした。社外取締役の多様な視点も交えて、「エンジニアリング力を高めるための『仕掛けづくり』』という本質を浮かび上がらせる充実した内容でした。

レポートを読み進めていくと、コミュニケーションが全編を貫くテーマであり、次期中計に連なるさまざまな胎動につながることに気づかされる構成は見事です。なお、昨年のトップメッセージで、長田社長は、「設計力・エンジニアリング力」、「グローバル展開」という貴グループの強みに焦点を当て、これを長期的に強化するために人的資本や知的資本など無形資産を重視する姿勢を強調されました。今回の主題は、無形資産を活かす方策の具体化とみることで、こうした一貫性も貴社レポートの特徴として指摘できると思います。

一貫したメッセージには、後段の活動報告で紹介されるさまざまな成果を、各論に留めることなく、一本のストーリーにまとめ上げる効果もあります。事実、半導体受託生産の世界最大手であるTSMCの日本工場建設で主要設備を担った成果、環境システム事業の新技術開発センターの稼働と本社R&Dサテライトとの連携、塗装システム事業におけるドライ加飾技術の実用化に向けた体制整備など、それぞれ独立テーマとしても興味深いコンテンツですが、「設計力・エンジニアリング力」、「グローバル展開」の強化に向けたコミュニケーションという文脈の中で、相互に関連しながら、価値創造ストーリーの解像度を引き上げています。

そして、こうした一連の成果と将来への布石が接続され、次期中期計画の方向性を示唆し、期待を高める展開も高く評価できます。グローバルな事業成長を見据えた事業開発本部の新設、TSMCでの経験を加えた環境システム事業の半導体分野への展開、ドライ加飾技術を擁する塗装事業部の時代に先行する技術開発、全事業に係るデジタル技術の活用など、全て長期ビジョンに則した着実な歩みであると同時に、次の展開を強く感じさせます。一段と完成度を高めた本レポートの今後のさらなる発展を期待します。

意見を受けて



サステナビリティ担当役員 取締役 専務執行役員 中川 正徳

竹ヶ原様には毎回、示唆に富む貴重なご意見やあたたかいお励ましを賜り、心より感謝申し上げます。

統合報告書の4号目となる今回は、社長就任二年目、次期中期経営計画策定途上のタイミングであることもあり、長期ビジョンの実現に一步一步近づきながら、さらなる伸びしろを見出し、ストレッチしていこうという思いや動きなどをお伝えすることに力点を置きました。また、ありがたい姿をしっかり見据え、大気社グループが一体となって取り組んでいくためには、丹念に対話を重ねベクトルを合わせていく取り組みが不可欠と考え、多様性を融合するための自由闊達なグローバルコミュニケーションについても掘り下げております。

今後も、足元での具体的な取り組みから価値創造ストーリーが浮かび上がるような媒体を目指し、いっそうのブラッシュアップを図ってまいります。

引き続き忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。